

# 銅 概 況

大阪市中央区玉造 2 丁目 28 番 10 号  
加藤金属興業株式会社

## ◎ 平成 30 年 7 月の国内電気銅建値は下記の通りです。

7 月	2 日	～	780 円/Kg
7 月	5 日	～	750 円/Kg
7 月	12 日	～	730 円/Kg
7 月	20 日	～	720 円/kg
7 月	25 日	～	730 円/kg

平成 30 年 7 月度は平均で 740.40 円/kg となり、前月比 69.60 円/kg の値下がりとなりました。

### 海外銅価の動き

7 月の LME 銅相場	7/1 ～ 7/30 (安値ドル 5,982.00～6,595.00 高値ドル)
7 月の NYC 銅相場	7/1 ～ 7/30 (安値セント 268.60～293.15 高値セント)

2018 年 7 月度の LME 現物は、7/2 \$ 6,595.00 でスタート。6 月前半には \$ 7,200 を超えていた銅相場もチリ・エスコンディダ鉱山でのストの動向がある状況でも、ジリジリと下げる動きに終始する形となった。

米中貿易摩擦による懸念とそれによる世界経済への影響に対する懸念は予想以上に尾を引く結果となった。7 月前半には中国製造業 PMI が低下、中国株を始めとするアジア市場全体に株価が下落するなど、相場への上げ要素は非常に少ない。米・トランプ大統領の追加方針に対抗する中国の反撃についても世界経済には決していい方向には進まないとの見方が広がる状況となった。7 月 19 日の現物では一時、\$ 6,000 を割り込むところまで値を下げる相場となった。以降、やや持ち直し \$ 6,000 はキープするも下降の気配は簡単には消えそうにはない状況と言える。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2015 年 4 月 資料より (単位/千トン)

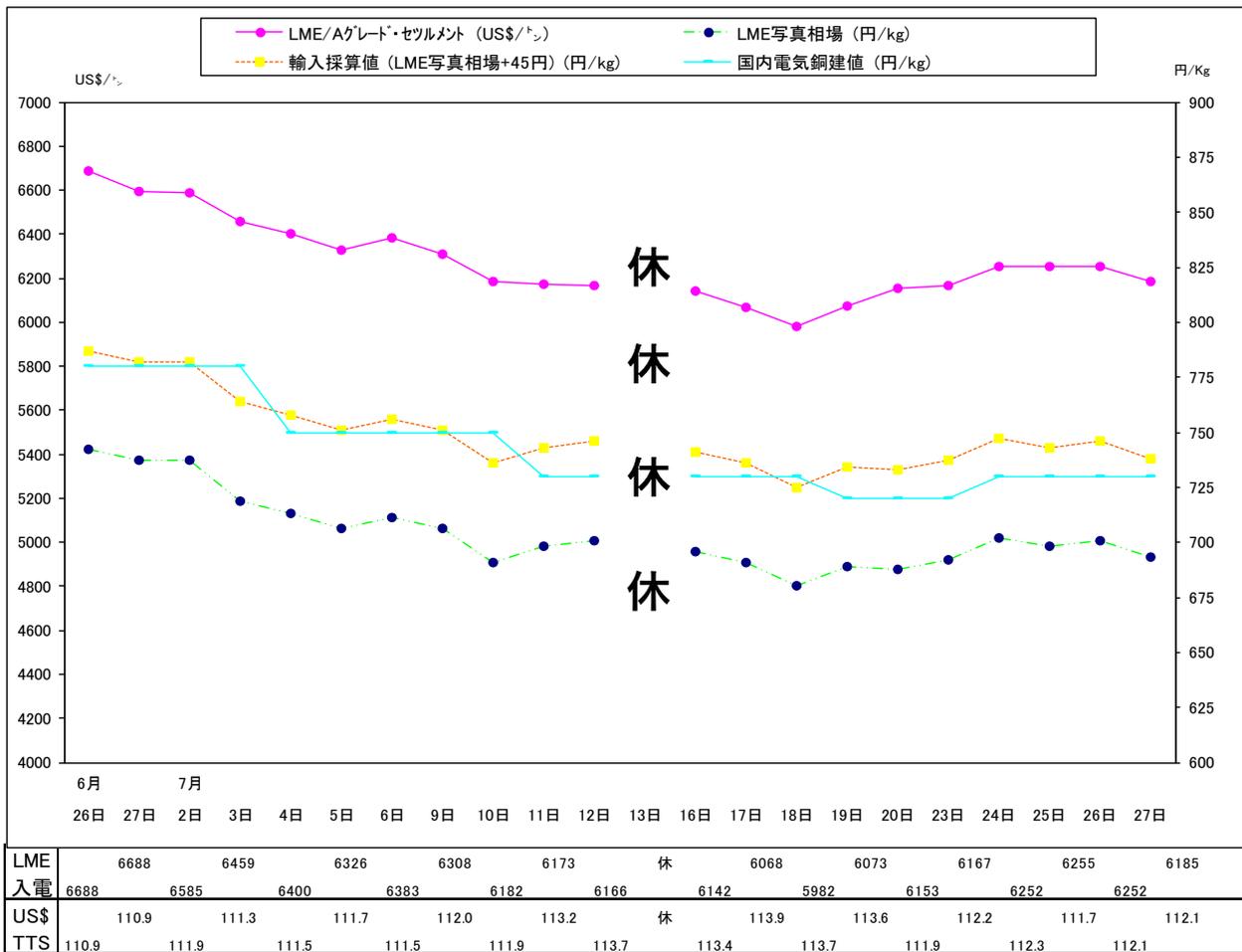
	2017年 実績	2018年 実績	前年比	2019年 予想	前年比	2020年 予想	前年比
全世界地金生産	23,008	23,306	+1.3%	23,678	+1.6%	24,124	+1.9%
全世界地金消費	23,059	23,522	+2.0%	23,997	+2.0%	23,447	+1.9%
全世界需給バランス	-51	-216		-319		-323	

### 先行き短期見通

#### 国内銅価

7 月度の国内建値は 2 日 780 円/kg でスタート。5 日 750 円、12 日には 730 円と下降線をたどる一方へ。貿易戦争への大きな懸念が広がる中ではリスク回避は避けられない。その後 20 日には 720 円まで下げた。ほぼ 1 年ぶりの建値価格となった。その後 25 日には 730 円/kg とやや戻し 8 月へ。7/30 付 LME \$ 6,6185.00、27 日付 為替 (TTS) 1USD=112.11 円で日本円換算計算値 693 円/kg。2018 年 8 月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限りでは、730 円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 平成30年7月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 7月 2日 ~ 370 円/kg
- 7月 5日 ~ 352 円/kg
- 7月 11日 ~ 340 円/kg
- 7月 17日 ~ 328 円/kg
- 7月 20日 ~ 340 円/kg
- 7月 25日 ~ 343 円/kg

平均345.60円/kg

平成30年7月は上記の通りで前月比 43.40円/kgの 値下げとなりました。

これはLME亜鉛相場の下落で引き下げられたもの

◎ その他の建値

電気鉛	7月	313.00 円/kg	(前月比-	20.00 円/kg)
電気錫 (相対)	7月	3,610.00 円/kg	(前月比-	120.00 円/kg)
ニッケル (溶解用)	7月市中価格	1,600.00 円/kg	~ 1,650.00 円/kg	
銀	6月平均	59,920.00 円/kg	(前月比+	360.00 円/kg)
	7月30日	56,690.00 円/kg		
金	6月平均	4,563.71 円/g	(前月比-	60.54 円/g)
	7月30日	4,392.00 円/g		

◎ 伸銅品関係

平成30年6月の伸銅品・品種別生産速報 (全国ベース)

		5月度実績	6月度速報	前月比	前年6月度実績	前年同月比
銅	板	1,414	1,311	-7.3%	1,361	-3.7%
	条	21,916	23,233	6.0%	23,815	-2.4%
	管	9,841	9,454	-3.9%	9,977	-5.2%
	棒	2,271	2,499	10.0%	2,501	-0.1%
	線	276	274	-0.7%	262	4.6%
黄銅	板	572	654	14.3%	653	0.2%
	条	8,452	9,464	12.0%	9,361	1.1%
	管	542	575	6.1%	607	-5.3%
	棒	15,909	15,778	-0.8%	17,251	-8.5%
	線	2,845	2,693	-5.3%	2,641	2.0%
青銅	板	2,695	3,056	13.4%	2,962	3.2%
	条					
	棒	245	270	10.2%	290	-6.9%
	線	61	77	26.2%	85	-9.4%
洋白・その他	板	460	556	20.9%	542	2.6%
	条					
	棒	34	39	14.7%	53	-26.4%
	線	484	501	3.5%	454	10.4%
合計		68,017	70,434	3.6%	72,815	-3.3%

6月の伸銅品生産速報は、70,434トンで前月比プラス2,417トン、前年同月比-3.3%となり、前年同月比が1ヶ月ぶりにマイナスとなりました。

## 電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の4月分実績及び5月分推定によれば、4月実績では7部門中で増加したのは自動車と建設電販、輸出の3部門のみだったが、出荷ウェイトの高い建設電販が健闘したため、総計は5万6千659tで前年同月比0.2%増と僅かに伸長し、2ヵ月ぶりの増加に転じた。また5月分推定は、建販や電気機械、自動車、通信、輸出の5部門が上回り、総計は同3.5%増の5万5千tで2ヵ月連続で増加する見通し。特に建販が2.53万tで同7.2%増と大幅に増加する見込み。

一方、4月分の部門別出荷量をみると、プラスグループは自動車部門と建設電販、輸出の3部門となった。自動車は生産台数が増加しているため丸2年連続で上回り、同6.0%増と好調を持続している。5月も伸びる見通しで25ヵ月続伸する模様。建設電販は一部の再開発案件、インバウンド関連やJR用が動き、同3.5%増加した。5月は同7.2%伸長する見込み。ただ、4、5月とも前年実績が低いためであり、数量面では2.5～2.6万t台で本格需要には至っていない。需要が盛り上がるのは8、9月以降になるとみられる。輸出は中東や東南アジア向け電力ケーブルが牽引し同5.1%増加した。マイナスグループは4部門。通信は光化の影響で同9.2%減と6ヶ月連続で下降。通信は最少規模の部門となった。電力は張替え需要の遅れで同13.3%の減少。電気機械は機器用ケーブルは回復も家電向けなどは伸び悩み、同1.1%の減。その他内需は4ヵ月連続で同9.2%減少した。

### 2018年4月分(実績)・2018年5月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	4月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	5月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	4月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	895	4.9	▼ 9.2	900	0.6	0.9	1,548	(▼0.1)	5.2
電力	(1,807) 3,777	(▼13.5) ▼ 18.3	(10.5) ▼ 13.3	(2,000) 4,100	(10.7) 8.6	(▼19.7) ▼ 6.9	1,190 4,555	(▼20.5) ▼ 17.8	(12.1) ▼ 3.8
電気機械	(530) 12,423	(▼7.7) ▼ 5.4	(25.6) ▼ 1.1	11,500	▼ 7.4	4.7	513 17,496	(▼10.9) ▼ 1.6	(31.2) 10.7
自動車	(103) 6,894	(▼ 1.9) ▼ 10.1	(28.8) 6.0	6,200	▼ 10.1	8.4	409 30,326	(▼ 14.4) ▼ 19.0	(35.4) 11.4
建設・電販	(42) 26,777	(68.0) 0.0	(281.8) 3.5	25,300	▼ 5.5	7.2	38 31,584	(81.0) ▼ 2.7	(442.9) 11.9
その他内需	(47) 4,296	(▼4.1) 0.2	(▼56.9) ▼ 9.2	(400) 4,300	(▼44.6) 0.1	(▼36.3) ▼ 2.4	50 7,032	(▼10.7) ▼ 1.0	(▼33.3) 7.7
内需計	(2,529) 55,062	(▼11.0) ▼ 4.0	(12.0) 0.1	(2,400) 52,300	(▼5.1) ▼ 5.0	(▼23.1) 4.6	2,200 92,542	(▼16.3) ▼ 9.2	(19.8) 10.2
輸出	(0) 1,597	(▼100.0) ▼ 23.3	- 5.1	(100) 2,700	(0.0) 69.1	(▼70.3) 122.8	5 6,390	(▼97.9) ▼ 17.3	(▼68.7) 15.9
合計	(2,529) 56,659	(▼22.9) ▼ 4.7	(11.1) 0.2	(2,500) 55,000	(▼1.1) ▼ 2.9	(▼27.7) 7.4	2,206 98,931	(▼23.1) ▼ 9.7	(19.1) 10.6
心線販売	(1,336) 29,989	(6.9) 3.0	(17.3) 0.6	(1,200) 27,770	(▼10.2) ▼ 7.6	(46.0) 6.5	357 22,664	(5.3) 0.5	(25.3) 11.1

(注) ( )内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。  
金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

### 2018年4月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品 種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比
裸線	3,794	5.7	▼ 21.5	3,608	10.3	▼ 6.4
巻線	11,449	▼ 6.1	0.9	12,350	▼ 0.3	15.0
機器用電線	3,737	0.3	9.1	10,975	2.3	14.7
通信用電線・ケーブル	1,436	▼ 0.1	▼ 5.1	3,247	▼ 5.0	2.7
電力用電線・ケーブル	20,253	▼ 7.1	1.9	21,591	▼ 14.5	13.4
被覆線	10,549	2.3	3.4	14,893	▼ 1.3	10.3
輸送用電線	5,441	▼ 14.5	1.9	32,267	▼ 18.2	9.0
銅電線計	56,659	▼ 4.7	0.2	98,931	▼ 9.7	10.6
EM電線・ ケーブル	62	▼ 13.9	▼ 15.1	232	▼ 6.8	▼ 3.3
通信用電線・ケーブル	2,033	▼ 17.5	▼ 6.7	2,355	▼ 19.0	▼ 1.3
電力用電線・ケーブル、被覆線	2,099	▼ 17.5	▼ 7.0	2,615	▼ 18.4	▼ 1.0
計	2,099	▼ 17.5	▼ 7.0	2,615	▼ 18.4	▼ 1.0
アルミ電線計	2,529	▼ 22.9	11.1	2,206	▼ 23.1	19.1
光製品	3,641,193	▼ 19.6	▼ 7.1	20,058	▼ 40.0	▼ 12.9
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	3,668	▼ 16.5	▼ 18.5

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

- 国際アルミニウム地金相場の第1週は、米中貿易摩擦懸念が強まる中、中国株式を初めとしたリスク資産が下落。非鉄相場には、下押し材料となっている。貿易摩擦を背景に、リスク資産安・安全資産高の動きが継続。第2週は、中国が米国製の一部光ファイバー製品に既に課されているアンチダンピング関税の引き上げを発表、米中摩擦が懸念され相場は下押しされる。一方、米政府は中国からの輸入品に対し2000億ドル規模の追加関税方針を発表、リスク資産には下押し圧力となる。中国の対米総輸入は、1300億ドルに留まる。第3週は、米露会談が具体的な内容を欠いたことで、ルサール問題長期化への懸念が増大、アルミには上昇材料となる。米中貿易戦争勃発時のパニック的な売りは一巡したが、人民元安が止まらず、ドル高が進む中で、為替差益を狙った裁定取引の売りで小銭稼ぎが展開。第4週、ルサールに対する米財相の発言からオンワラトの在庫レベルが減少を続けており相場は下支えされているものの、上値を試すほどの大きな材料もなく、当面は\$2,000～\$2,100のレンジ内での展開が続くと予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2018年7月積 2,213.00～2,220.00 ドル／トン
- ・輸入採算価格 2018年7月積 262.10～262.90 円／kg
- ・NSP 2018年5月 316.4 円／kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2018年7月～9月 310.00 円／kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'18年5月	'18年6月	'17年6月
月生産	*2,352.0	2,291.0	2,250.0
平均日産	*75.9	76.4	75.0

(\*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

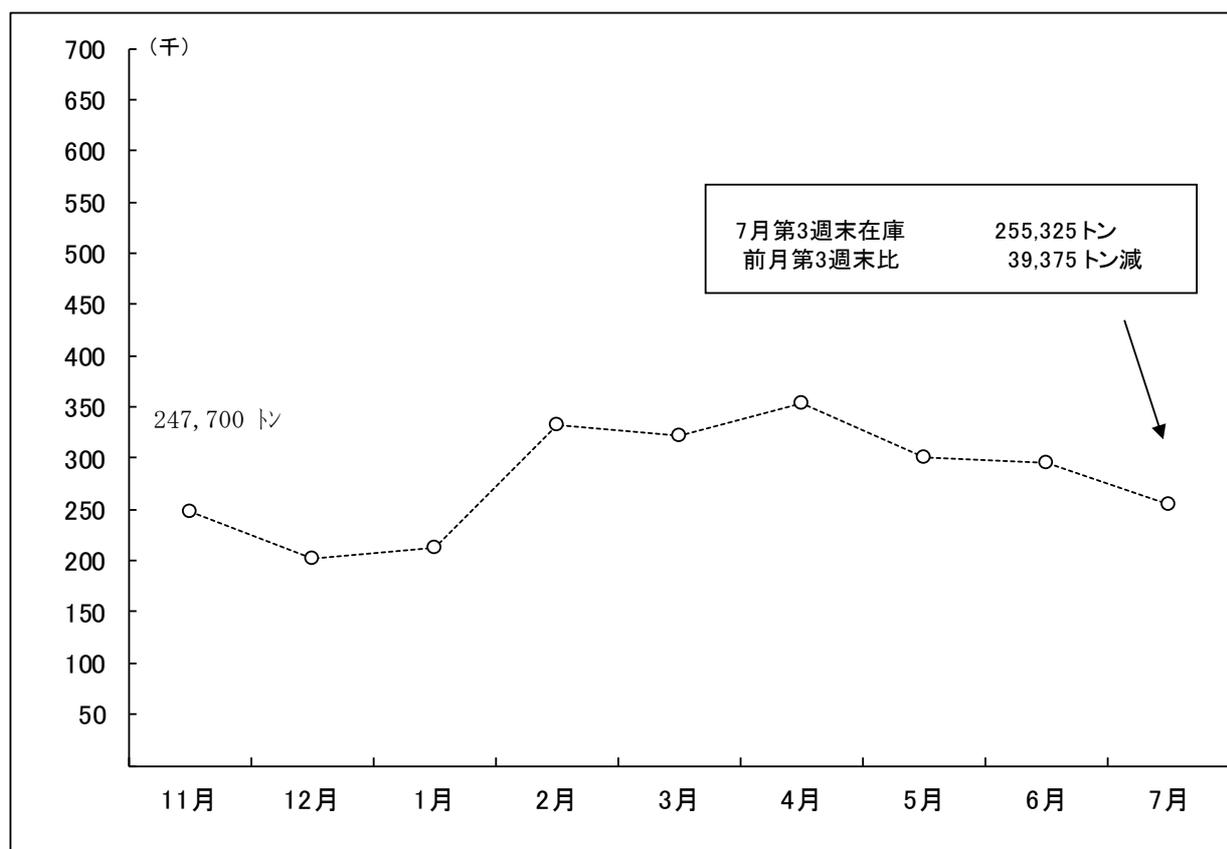
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2018年3月	2018年4月	増減	2017年4月	増減
横浜	109,200	122,500	+13,300	118,100	+4,400
名古屋	121,100	129,600	+8,500	118,200	+11,400
大阪	15,000	15,000	±0	14,000	+1,000
合計	245,300	267,100	+21,800	250,300	+16,800

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分から)

◎ L M E 銅在庫（各月第 3 週末参考）



◎ COMEX 在庫（第 3 週末）

・ 30年7月20日現在 215,984 S T 前月比 12,796 S T 減

◎ 国内山元電気銅在庫

・ 30年5月末 108,421 トン 前月比 3,316 トン増

◎ 伸銅品生産実績

・ 30年5月 確報 68,017 トン  
 ・ 30年6月 速報 70,434 トン 前月比 103.3 %

◎ 電線出荷実績

・ 30年6月 速報 59,700 トン 前月比 108.5 %

◎ 軽圧品生産実績

・ 30年 6月	板 類	109,872 トン	
	押 出 類	67,051 トン	
		<hr/>	
		176,923 トン	前月比 103.0 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。